

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な社会を生き抜くために、グローバルな視点で、自らがアクションを起こし、社会をリードする人材を育成する学校をめざす。そのために新たな価値を創造する力、社会を生き抜く人間力、多様性を尊重する社会的包容力を養う。

1. めざすべき生徒像

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| ①「人・社会・世界」の課題に気づき、解決しようとする志を持つ生徒 | 志す |
| ②幅広い教養を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒 | 創造する |
| ③社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる生徒 | 繋がる |
| ④以上のことを実現するために、己の将来を描き一歩踏み出すことができる生徒 | 描き、実行する |

2. めざすべき教職員集団

- | | |
|--|-----------|
| ①生徒・保護者に寄り添いながらも、新たな教育課題に対して果敢に挑戦する教職員集団 | 挑戦する |
| ②常に学びの姿勢を持ち、切磋琢磨する教職員集団 | 切磋琢磨する |
| ③他者理解に富み、アイデンティティを尊重する人間味あふれる教職員集団 | 人間味が豊かである |
| ④互いの持ち味を認め、多様な力を糾合するチーム力のある教職員集団 | チーム力がある |

2 中期的目標

1. 課題に気づき、解決しようとする志を持つ生徒を育成する。

- (1) 思考し、探究する力の育成：1年『産業社会と人間』、2、3年『総合的な探究の時間』、探究的学習の体系化

※卒業時の産業社会と人間と探求の学びを測るために学校教育自己診断「産業社会と人間・総合的な探究の時間・探求的な学びができた」生徒㉒ (R2:47.2%、R3:78.0%、R4:84%) における3年生の肯定的回答を、R5は85%以上とし、R7には90%以上とする。

- (2) 自尊心の醸成を促し、「自主自律」を基本に己を律する力の育成

※遅刻者数の一層の低減を行い、R5にR4以下、R7年度に2500回以下にする。(R2:2647回、R3:2697回、R4:3847回)

※学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いている。」生徒㉓ (R2:62.6%、R3:74.5%、R4:83%) での肯定回答をR5は85%以上に、R7には90%以上に。「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる。」生徒㉔ (R2:56.2%、R3:59.7%、R4:66%) での肯定回答をR5は70%以上、R7には75%以上とする。

※学校教育自己診断「今宮高校で人として成長したと思う」生徒㉕における3年生の肯定感 (R2:90.1%、R3:87.8%、R4:91%) を、R7まで91%以上を維持する。

- (3) 国連が提唱するSDGs・ユネスコスクールを「ジブンごと」化し、アクションを起こす力の育成：自治会活動や産社・総探・課題研究を通じて、SDGsの17の目標のいずれかについて全校的な取組みを推進する。

※学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」生徒㉖ (R2:67.3%、R3:77.6%、R4:82%) ではR5は85%以上、R7には90%以上、

「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」生徒㉗ (R2:60.4%、R3:64.6%、R4:75%) では、R5に78%以上、R7には84%以上の肯定的評価にする。

2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する。

- (1) ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価をフィードバックし、教科毎に授業力を向上させ、進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

※学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にするようになった」生徒㉘ (R2:75.8%、R3:80.5%、R4:81%) をR5は83%以上、R7年度に90%以上の肯定的評価とし、学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な力が身につく」生徒㉙ (R2:53.7%、R3:57.3%、R4:68%) をR5は70%以上、R7に75%以上の肯定的評価とする。

- (2) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成：生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取組みへの支援・育成

※総合の時間における「今高生の主張」、「ディベート」、「未来探究」、「ビブリオバトル」等のプログラムの改善

※学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくあった。」生徒㉚ (R2:85.1%、R3:88.5%、R4:95%) をR5には95%以上の肯定的評価とし、その後R7もそれを維持する。

- (3) 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成

※学校教育自己診断「家庭学習を毎日した」生徒㉛ (R2:27.0%、R3:27.2%、R4:34%) の肯定的評価をR5では40%以上にし、R7には50%以上とする。

- (4) 4技能をバランスよく配した英語の授業の推進とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上

※(R4から1,2年生全員受験 R42年生:7.1%) 英検2級以上の合格者を2年生終了時にR5は20%以上とする。R7には40%以上とする。

3. 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。

- (1) 国際感覚と国際交流力の育成：ユネスコスクール・SDGsに取り組み、多様な文化を理解する国際交流を促進する

※学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」生徒㉜ (R2:45.1%、R3:50.4%、R4:62%) を、R5では肯定感を65%以上、R7には70%以上とする。

- (2) 共生推進教室を中心に、「共に学び、共に育つ」インクルーシブ教育の推進を行う。

※学校教育自己診断「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」生徒㉝ (R2:63.7%、R3:69.1%、R4:86%) を、R5は90%以上の肯定評価とし、その後R7もそれを維持する。

- (3) 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。

※学校教育自己診断「本校では、地震や火災の際の対応は知らされている」生徒㉞ (R2:51.2%、R3:67.8%、R4:72%) を、R5では75%、R7には80%以上の肯定的評価とする。

(4) 社会に開かれた学校づくりを推進し、地域貢献を進める。

ア) ホームページの充実、学校説明会、中学校訪問の充実を図り、入試倍率を R6 入試は 1.10 倍以上を継続、R8 入試は 1.20 倍以上を獲得する。

イ) 教養講座の充実と地域行事への参加を促進する。

※学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」生徒④ (R2:44.7%、R3:61.8%、R4:73%) の項目を、R5では75%以上、R7には80%以上の肯定的評価とする。

ウ) PTA、同窓会、後援会との連携の強化

※学校教育自己診断「学校では PTA 活動は活発である」保護者③ (R2:81.5%、R3:77.9%、R4:68%) の肯定的評価を R5では75%以上、R7には80%以上の肯定的評価とする。

4. 自分の将来を描き、そのための実行を進めるためのキャリア教育の充実

(1) 高・大・社を意識した系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。

※学校教育自己診断「希望進路や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」生徒⑨ (R2:81.1%、R3:86.0%、R4:88%) を R5は90%以上継続、R7には93%以上の肯定的評価とする。

(2) 進路実現を可能にする学力の育成

※大学入学共通テストにおいて平均点以上を獲得する科目数を (R2:426科目、R3:339科目、R4:290科目)、R5は300以上、R7には500以上とする。

(3) 国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・早慶上・MARCH)合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実

※京大・阪大・神大・大阪公立大を含め国公立大学への合格者数を (R2:27名、R3:18名、R4:19名)、R5は25名以上、R7には40名以上とする。

※関関同立+近の合格者の合計を (R2:128名、R3:136名、R4:130名)、R5は140名以上、R7には160名以上とする。

5. 教職員集団「チーム今宮」の育成

(1) ビジョン委員会－カリキュラムマネジメント委員会－運営委員会の活性化を図り、高大接続改革など新たな教育課題に挑戦し、伝統校としての魅力を持つ高校に改革するために、互いに切磋琢磨する教職員集団の育成を行う。

※学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」教員④ (R2:50.0%、R3:59.2%、R4:59%) を、R5は60%以上、R7には65%以上の肯定的評価とする。

※学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」教員⑤ (R2:65.0%、R3:63.3%、R4:76%) を、R5は80%以上、R7には85%以上の肯定的評価とする。

(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。

※初年度に学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」生徒⑥ (R2:53.7%、R3:57.3%、R4:68%) を R5は70%以上、

R7には75%以上、学校教育自己診断「教え方を工夫するなど先生方は授業に熱心だった」生徒⑩ (R2:76.9%、R3:80.7%、R4:84%) を R5は86%以上、R7には90%以上とする。

※授業アンケートの9項目平均を向上 授業アンケート9項目平均 (R3:3.36、R4:3.33%) を R5は3.40以上、R7には3.50以上とする。

(3) 情報共有を促進させ、ICTを有効活用できる教員の育成

※学校教育自己診断「本校は計画的に人材育成を行っている」教員④ (R2:50%、R3:40.8%、R4:50%) を、R5は55%以上、R7には60%以上の肯定的評価とする。

(4) 仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。

※ストレスチェックの総合指数を (R2:105、R3:111、R4:102)、R5は100以下に、R7には98以下にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校生活をより充実したものとするため、生徒、保護者の皆様と教職員に対して、学校教育活動や取組みに関するアンケート「学校教育自己診断」を12月中旬に実施。</p> <p>【今年度の傾向】質問項目は生徒44、保護者34、教職員46。うち肯定的回答の割合が前年度より増加した項目は、生徒22(50.0%)、保護者19(55.9%)、教職員33(71.7%)であった。教職員については概ね前年度より良い結果になっているが、生徒については前年度並みか若干下がっている項目が目立った。特に、学習指導に係る多くの項目で目標値に届かなかった結果を真摯に受け止め、現状の把握と分析、課題の抽出と対策の具現化を行い、真に生徒が「今宮で学んでよかった」と実感できるような教育実践を計画的に進めることが肝要である。</p> <p>【学校満足度】生徒①、保護者①ともに「今宮総合学科で学んでよかった」は過去5年間で年々増加し、今年度も約90%の高い水準を維持している。また、生徒②「学校生活や学校行事においても総合学科らしさを感じることができた」は87.2% [R4:84.0%] とこの5年間で過去最高の肯定的回答が得られた。前年度までの3年間はコロナ禍で様々な活動が制限されたが、引き続き感染防止対策に努めながら、徐々にコロナ禍前の取組みが再開できた年度になった。そのひとつとして、11月に姉妹校の台湾臺東女子高級中學の生徒たちが来校し、生徒主体の交流会等を盛大に行うことができた。生徒⑨、保護者④「本校は国際交流に力を入れている」は生徒90.0% [R4:62.0%]、保護者84.7% [R4:50.6%] とその成果が大きく表れている。次年度はアメリカの姉妹校との交流再開の予定もあり、さらに生徒が主役の国際交流活動を進めていく。また、生徒④、保護者⑤「学校の施設・設備に満足できた」は生徒83.4% (R4:79.8%)、保護者77.9% (R4:75.1%) と前年度より上昇し、概ね高い満足度が得られている。今年度トイレの全面洋式化の他、物理実験室の空調設備設置、屋上プール屋根の緊急随架補修等の工事が行われ、生徒が安全で安心して学べる環境整備に努めているところである。1月には大阪府のGIGAハイスクール構想により全普通教室への電子黒板設置工事が行われ、最新のICT機器を活用したより効果的な授業づくりが期待できる。</p> <p>【学習・進路指導等】生徒⑩「先生方は教え方に工夫をするなど授業に熱心だった」は86.4% [R4:84.3%] と、5年前 [R1] の69.3%から5年連続で大きく上昇した。また、生徒⑤「学ぶことの意味について考え、授業を大切にしようになった」も81.6% [R4:81.7%] で、5年前 [R1] の71.3%から上昇しているが、今年度は上げ</p>	<p>【第1回 (R5/7/14)】</p> <p>○ツールを利用した働き方改革の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての授業で学校支援クラウドサービスを利用して課題の配信や回収及び様々な連絡を行っている。会議でも利用し印刷に係る時間と費用を削減している。また、定期考査等で自動採点システムを導入している。自動採点システムは中学校でも導入、令和7年度入学者選抜から学力検査で導入予定である。 ・会議体の在り方はコロナ禍以来変化した。区役所では来庁しなくても良いシステムの導入を検討している。 <p>○共生推進教室の運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場研修を行う企業を同窓会のつながりを生かしたいが、具体的な希望があれば訊いておきたい。生徒一人ひとりの適性を考慮しながら浪速区など地域で繋がる場所を開拓するのがよい。 <p>○キャリアに向う探究学習の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の学問」と「学んでいる地域と事業所」を結びつけ、浪速区をテーマに区役所や地域の方々とつながり、有機的な刺激を受けながら進めている。戎橋商店街振興組合や商工会議所を介して学校のニーズに合致した企業と繋がれば、探究学習で学びを深化させる支援ができるであろう。 <p>○グローバルに繋がる視野について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が明けて国際交流を再開する予定。今年度は台湾の姉妹校が、次年度はアメリカの姉妹

止まりの感がある。他に生徒⑭「自分は今宮総合学科で学んで自分の進路選択ができた」81.4% [R4:77.5%] も前年度より上昇しているが、学習・進路指導に関する他の項目を見ても概ね上げ止まりの傾向は拭えず、授業を中心に据えた学びの営みが、生徒自身の職業観の醸成、進路選択や進路実現に向けた学習成果に実感として繋がりにくさを感じている生徒が一定の割合で存在していると考えられる。原因を究明し、入学時より具体的な対策を講じる必要がある。生徒③「自分は今宮高校で学んで人として成長した」87.7% [R4:87.3%]、生徒⑯「大学について理解することができた」88.4% [R4:88.0%]、生徒⑰「働くことの意味や職業について考え理解が深まった」84.0% [R4:84.3%]、生徒⑱「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に変わった」81.7% [R4:80.3%]。生徒の自学自習の習慣づけや、授業等で学んだ内容の発展的学習を生徒が自立して進めることについては依然低調であり、課題を出して成績に反映させるなどの負荷をかけないと継続した学習ができない生徒が多数いる状況を打破して、高い志を持って学び続ける生徒集団をつくる効果的な仕掛けを考えたい。生徒⑧、保護者⑧「家庭学習を毎日した」生徒36.0% [R4:34.7%]、保護者38.7% [R4:36.5%]。生徒⑥、保護者⑥「学校の授業・補講等だけで進路実現に必要な力が付いた」生徒66.6% [R4:67.8%]、保護者38.2% [R4:42.5%]。総合学科の肝の部分である科目選択指導についても上げ止まりの傾向が見られた。生徒⑳「選択科目の決定についてのガイダンスは十分であった」85.6% [R4:89.1%]、生徒㉑「進路希望や科目選択の指導はきめ細かく適切に行われた」87.1% [R4:87.4%]、生徒㉒「科目選択は自分の進路選択とのつながりに満足している」79.6% [R4:84.5%]、生徒㉓「選択した科目については選びたい科目を選べた」85.9% [R4:82.7%]。系列に係る教育課程編成上の制限や教員数の問題などがあり、もともと全生徒の希望を叶えるものではないが、次代を先取りした新たな学校設定科目の設定や、生徒のニーズに合致したカリキュラム・マネジメントを進めるように現在専門委員会で検討しているところである。進路関係の情報提供については、生徒㉔「学校は将来を考えたり調べたりするきっかけや情報を提供している」87.9% [R4:86.7%]、生徒㉕「学校には進路指導室や進路相談室など将来を考えたり調べたりする設備や環境が整っている」83.9% [R4:84.4%]、保護者㉖「学校は進路についての情報をよく知らせてくれた」73.7% [R4:72.8%]と、同様に停滞している。進路指導室が普通教室から離れた1階の奥まった場所にあるため、生徒が気軽に相談に訪れにくいこともあろうが、進路指導部の教員に留まらず、全教員が進路選択や目標設定、進路実現に向けたマインドや具体的な方策について折に触れて伝えていくこと、すなわち、教科指導に進路指導を絡ませながら生徒一人ひとりの進路指導に対して全教員の熱量を上げて組織的に関わっていく体制づくりが求められていると分析する。

【探究的学習・人権教育の推進等】本校の1年次「産業社会と人間」及び2、3年次「総合的な学習の時間」は、3年間で5単位実施している。その中で進路ガイダンスやクラスづくりに関わることの時間も確保しているが、「探究的学習」及び「人権教育」を柱とした学びを展開している。1、2年はグループで、3年は個人でテーマを決めて探究学習を行い、それぞれ12月～1月にクラス予選を経て学年全体で発表会を実施している。今年度は3年で特にプレゼン能力の伸長が認められ、また、2年では地域の様々な仕事や活動をされている方とアポイントを取って出向き、指導・助言を仰ぐ等行い、1/11（木）の発表会では浪速区長をはじめとする20名の外部の方を審査員としてお招きして実施した。この調査はこれら学年発表会が実施される前になされたので、発表会後の数値はもう少し高くなると予想されるが、概ね高い肯定的回答が得られている。シラバスをさらにブラッシュアップして、次代を担う秀でた思考力・判断力・表現力を備えたクリエイティブな人材育成に努めたい。生徒㉗「この学校の授業では自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくあった」93.1% [R4:94.4%]、生徒㉘「課題研究では探究的な学びができた」84.1% [R4:83.9%]、生徒㉙「課題研究では研究や発表など創意工夫できる機会を豊富にもつことができた」94.1% [R4:95.4%]。社会における様々な人権問題について外部講師を招くなど積極的に進めてきた。また、4年前に共生推進教室設置校となり、インクルーシブ教育をリードする実践校としての取り組みを進めているところである。一朝一夕にはいかないが、本校の重点項目である「共生社会をリードする人材育成」を果たすべく心豊かな人権感覚を育成する教育を継続的に進める。生徒㉚「命の大切さや社会のルール、人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」91.8% [R4:91.8%]、生徒㉛「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった」85.4% [R4:85.6%]。また、その際、生徒に対して本質的な内容に触れた指導が行われるようにまず教職員に対する研修を十分に行う必要がある。人権教育推進委員会を軸に今年度はその取り組みの成果が一定得られた。教職員㉜「人権教育に関する様々な課題や指導方法について全教職員で話し合っている」84.3% [R4:70.9%]

【生徒指導等】生徒㉝「自分は互いに認め合い協力して良いクラスづくりを進めることができた」85.4% [R4:85.1%]、生徒㉞「学校行事やホームルーム活動は活発で積極的に関わっていた」83.1% [R4:82.6%]、生徒㉟「学校ははじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88.2% [R4:87.6%]、生徒㊱「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」80.8% [82.0%]。教職員のサポートを受けながら、概ね生徒が主体的に働いて良好な人間関係やクラスづくりが進められていることが伺える。生徒㊲「学校における生徒指導等や遅刻防止、服装の規律保持などの指導には納得できる」65.5% [R4:73.8%]、生徒㊳「自分は積極的にルールの順守やマナーの向上に努めた」92.7% [R4:91.0%]。今年度、予め生徒にアナウンスしたうえではあるが遅刻の定義を厳格化し、電車の僅かな遅延（10分以内）を正当な理由から除したため納得感が下がっているが、多数の生徒はルールを守って生活している。保護者は8割以上の支持が得られており、生徒一人ひとりの内面に切り込みながら、生徒に迎合することなく今後も粘り強い指導を進めていく。保護者㊴「学校は生徒に対する生活指導や遅刻防止、服装の規律保持などによく取り組んでいた」83.1% [R4:83.5%]

【行事・部活動・コミュニケーション】生徒㊵「自分は文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加した」90.7% [89.5%]、保護者㊶「子どもは文化祭・体育祭・宿泊行事などの学校行事に積極的に参加していた」91.2% [R4:93.7%]と、生徒、保護者ともに90%を超える高い数値を維持している。文化祭ではコロナ禍が明け、生徒の模擬店やPTA企画が活発に行われ盛況であった。生徒㊷「この1年間、自分は部活動を熱心に取り組んだ」70.2% [R4:72.4%]、保護者㊸「この学校の部活動は活発であった」87.5% [R4:81.6%]。生徒㊹、保護者㊺「本校は部活動基本方針に沿って部活動が行われている」生徒83.3% [R4:83.4%]、保護者86.4% [R4:85.0%]と、部活動においても基本方針に沿って7割を超える生徒が熱心に取り組んでいることが伺える。ま

校が来校する予定である。

・他校ですでに交流が再開している。生徒にとってとても有意義な取組みなのでぜひ実施してほしい。また、部活動等の単位での交流も視野に入れると機会が広がるのではないかと。

○生徒に覚悟させる科目選択指導について

・系列によって予め選択科目が一定数定められており、選択の幅が狭くなっているが、そもそも系列を選択した段階で、進路実現に向けて最後まで自分の選んだ科目の授業をしっかりと受けて習得する覚悟をもつことが重要。最近は大學生でも楽なコースを選択する学生が増えている様子を見ると、最後まで諦めずに取り組む意欲や姿勢を醸成することがとても重要である。頑張るためのモチベーションをどうつくるかがポイントである。

○観点別学習状況の評価について

・主体的に学ぶことについて、成果物があれば評価しやすいが、ない場合は評価が難しい。そもそも3観点の評価の比重を1:1:1ではなく、教科の特性に応じてバランス良く評価できるようになれば良いのではと感じている。大学では、暗記ではなく理解することを学べるように意識して授業を行っている。本校の探究活動での実践を1つずつ積上げていくことが主体性を育む教育の礎になると感じる。「目に見えないものを考え、探究すること」が学びを深化させ厚みのある発表になる。

【第2回 (R5/11/30)】

○指導と評価の一体化について

・暗記型から理解へ切り替える。暗記では乗り越えることができない試験問題を作成する事が肝要。大學生も1年生では大変だと感じているが、2年生からは身につけてくるので手間もあるが効果的である。

・知識よりも探究問題へ変わっているが、高校入試問題は知識問題が多いので中学教員も知識を教えることが多いのが現状。

○未来探究のテーマについて

・「起業するためには？」というテーマ等を扱うとアドバイスやディスカッションが可能になる。今後は、区役所・地域・同窓会の方に中間発表に参加してアドバイスいただくことで探究の深みが持てるよう方法を検討している。

・ネットワーク（窓口）を作ることが重要なので、大学・区役所・同窓会等の繋がりを広げる。

○今宮高校の生徒像について

・「磨け知性・輝け個性」であって、今後のキャッチフレーズを一言で言うと、どんな言葉がピタッとくるか。浪速区役所では「半歩でも前へ」を職員全体のキャッチフレーズにしている。

○遅刻について

・コロナ禍を経験したため学校に行く習慣（意識）が弱くなっているのか。大學生にも「これからは自立できることが大切である。自分自身で生活習慣を確立できるかが重要」という話をしている。

○大学受験について

・討論やグループディスカッション等、多様化しているので、それに特化した塾もある。これまでの受験制度から変化しているので、学校側から生徒・保護者へ発信し、情報を共有することが大切である。

【第3回 (R6/1/11)】

○2年「未来探究」全体発表会を審査して

・与えられた課題は良くできるが卒論を取り組ませると厳しい大學生が増えている。このような学習をもっと深めて、創造型、探究型の思考の育成に努める必要性を感じる。

・ネットから安易に情報を入手するのではなく、e-Statを活用する等、自分で分析を行い、その分析に基づいた提案を行うというような探究学習を期待する。

・テーマと結論がずれている発表が散見された。

府立今宮高等学校

た、保護者との連絡や連携については、多くの項目で肯定的回答の割合が上昇した。保護者進路説明会をオンデマンド配信する等の取組みや、学年や分掌単位でホームページや学校支援クラウドサービス等を利用して、連絡事項の伝達や教育の取組みをきめ細やかに発信してきたことの成果が認められる。また、授業公開などコロナ禍でできていなかった行事を再開したが、今後は保護者が直接来校する機会を増やすとともに、さらにきめ細やかな情報発信に努め、ありのままの今宮高校を発信していきたい。保護者⑩「学校は進路についての情報をよく知らせてくれた」86.4% [R4:85.0%]、保護者⑮「科目選択の決定についてのガイダンスは十分であった」82.3% [R4:78.9%]、保護者⑲「学校のホームページなど広報活動は充実していた」84.6% [R4:78.1%]、保護者⑳「学校が出す文書・事務連絡などは適切であった」91.1% [R4:88.8%]、保護者㉒「学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けていた」73.7% [R4:38.4%]、保護者㉓「学校は教育情報について提供の努力をしている」86.1% [R4:77.7%]

【学校運営等】 教職員㉔「本校がめざす学校像を実現するために教職員は同僚性を高め協力して教育活動を行っている」84.3% [R4:64.8%]、教職員㉕「運営委員会は十分に機能している」96.1% [83.3%]、教職員㉖「本校は計画的に人材育成を行っている」72.5% [R4:50.0%]、教職員㉗「校内研修組織を確立し計画的に研修が実施されている」90.2% [76.0%] に見られるように、教職員の組織体制に関する項目はどれも大きく上昇した。また、教職員の危機管理意識や学校としての備えや体制に関する項目については、以下のとおりほとんどの項目で前年度を大きく上回り、全項目で90%を超える高い肯定的回答率が得られた。教職員㉘「施設・設備については日常的に点検や管理が行われている」96.1% [R4:80.0%]、教職員㉙「本校は地震や災害の際の対応を十分に知っている」92.1% [R4:78.2%]、教職員㉚「この学校はいじめ防止基本法に基づいていじめについて適切に対応している」98.0% [R4:89.1%]、教職員㉛「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」96.1% [R4:78.2%]、教職員㉜「学校は生徒のプライバシーや個人情報を守っている」94.1% [R4:96.4%] これらの項目は100%で当然という認識を持って継続して真摯に取り組む。

【その他】 生徒㉝「自分は積極的に学校美化に努めた」77.0% [R4:72.6%]、教職員㉞「この学校では清掃が行き届いている」86.2% [R4:65.4%]。日頃から校舎の清掃が行き届き、ゴミや埃のない綺麗な状態を保つことは、いつの時代も同じであろう。前年度より積極的に学校美化に努める生徒が増え、清掃が行き届いていると感じる教職員が大幅に増えたことは、学校改善の大きな一歩の証だと嬉しく思う。今年度2学期から毎朝の予鈴前に校内に流れるメロディを校歌に変えたところ、いつのまにか校歌を覚え、口ずさむ生徒が一人二人と増えている。生徒、教職員に関わらず、通う学校を愛し、大切に心の醸成が、より良い学校をつくるエネルギーの源になると確信する。

早い時期に中間発表を行い修正するのが良い。
 ・探究活動及び発表が自身のキャリアに繋がっているか。実際に経験や体験を積み上げていくことによって実感が持てるようになる。
 ・大学で「幸せとは何だろう」というテーマで論文を書かせた。すると、同じテーマでAIが書いた文章とほぼ同じものが多かった。学生もAIと同じ情報源であることが露呈する。当事者意識をもって自分事として言語化できる実体験を重ねることが肝要。
 ・中学校でも探究学習を行っているが、ネットからの情報に頼る等同様の課題が生じている。高校では一歩前進した学びを期待する。
 ○令和5年度学校教育自己診断結果及び令和5年度学校評価について
 ・教職員は生徒を激励しながら粘り強い進路指導をしていたおかげで、希望の進路実現を果たすことができた3年生は多いのでは。
 ・地域連携や外部人材を活用した教育活動においては、様々な分野で活躍している同窓会を紹介することができるので積極的に活用してほしい。
 ・教職員のストレスチェックの平均値が随分低くなっている。教職員一人ひとりに丁寧な対応をしたのか。
 ・南海トラフ型地震を想定した防災訓練が地域と一緒にできればいいと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価「*表中の○囲み数字は『学校教育自己診断』の項目番号、〔 〕内はR4の数値である。」

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1. 高い志を持って己を鍛える力の育成	(1) 思考し、探究する力を育成 ア 「今宮志学」の再検討、体系化を行う。	(1) ア 25期生の探究学習をモデルとし、思考力・判断力・表現力等を育成する探究的学習要素を体系化する。	(1) ア 学校教育自己診断「産業社会と人」総合的な探究の時間」生徒㉟3年 [84%]の肯定的回答を85%以上とする。	(1) ア 生徒㉟3年 79.2% (△) 3年は目標に達していないが、1年89.9% [85.8]、2年81.8% [80.5]と取組みの成果が認められる。
	(2) 自尊感情の育成、自己を律する力の育成 ア 自己を律する力の育成	(2) ア 遅刻に表れる生徒の生活習慣の改善 予鈴時間を3分早めることにより時間に余裕を持たせるようにする。	(2) ア 遅刻総数 [3847回] R4以下にする	(2) ア 遅刻4,056回 (○) 生徒の意識改革を促すために電車延着の取扱い等遅刻の定義を厳格化し、きめ細かく継続した指導を行った。その結果、実質的には減少した。遅刻の原因について背景を視野に入れた分析と粘り強い支援と指導を行い抜本的な改善に努める。
	イ 自尊感情の育成	イ 教育相談活動の充実	イ 学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」生徒㉞ [83%]の肯定回答85%以上 「担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。」生徒㉟ [66%]の肯定回答を70%以上	イ 生徒㉞80.8%、生徒㉟66.4% (△) 生徒は未来を生きる凄人になるという意識を持って接する事に加え、ワンチームとして組織的に生徒一人ひとりと関わる教員集団を作る。
ウ 生徒の人的成長の促進	ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す	ウ 学校教育自己診断「本校に入学して人として成長したと思う」生徒㉟3年生 [91%]の肯定感を90%以上を維持する。	ウ 生徒3年 87.7% (△) この1年間で「とても良かった」が26.2%から43.6%に急増したが他学年より低い傾向にある。3年次では生徒が自己の進路実現を果たすべく、自立して主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高いレベルで獲得する教育が多角的に取組まれるプランを構築、実践するよう進める。	
	(3) ユネスコスクール・SDGsへの取組み ア ユネスコスクール・SDGsに全学的に取り組む。	(3) ア ユネスコスクール・SDGsを、自治会をはじめ、PTA・有志などであらゆる機会を通じて取り組む。	(3) ア 学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」生徒㉟ [82%]を85%以上とする。 学校教育自己診断「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」生徒㉟ [75%]の肯定感を78%以上とする。	(3) ア 生徒㉟76.9%、生徒㉟72.2% (△) いずれも前年度より下がった。ユネスコスクールとしての取組みを明確に行えなかったことに加え、総合的な探究の時間の学びを教科指導において深化させる取組みが十分できていたか検証する必要がある。また、外部人材の活用や体験的学習のさらなる推進も図りたい。

府立今宮高等学校

<p>2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学力を育成する。</p>	<p>(1) 質の高い授業の提供 ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力等の育成 ア 「主体的・対話的で深い学び」の授業の促進</p> <p>(3) 学習習慣、家庭学習の定着 ア 家庭学習の定着</p> <p>(4) 英語4技能習得推進 ア 4技能をバランスよく習得</p>	<p>(1) ア・定量的授業アンケートに加え、生徒の自由記述による定性的アンケートを実施する。 ・各教科による研究授業、授業見学の促進 授業見学週間を設定</p> <p>(2) ア 「主体的・対話的で、深い学び」の教職員研修を実施し、深い学びを促進する授業を実践する。</p> <p>(3) ア 新1年生では1学期に生活習慣チェックを行い、学習時間の確保を促す。</p> <p>(4) ア 英語授業において4技能をバランスよく配した授業の展開を行う。 教諭による英検講習、教育産業による英検講習を開催する。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にしようになった」生徒⑤ [81%] を83%以上 学校教育自己診断「本校の授業・講習等だけで、進路達成に必要な学力が身につく」生徒⑥ [68%] の肯定感を70%以上とする。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」生徒⑫ [95%] の肯定感を95%以上を維持する。</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断「家庭学習を毎日学習した」生徒⑧ [34%] の肯定感を40%以上とする。</p> <p>(4) ア 英語2級以上の取得生徒を2年終了段階で [R4:7.1%] 2年生の2級取得者を20%以上にする。</p>	<p>(1) ア 生徒⑤81.6% (○)、生徒⑥66.6% (△) 目標値には届いていないが、学年別に見ると、観点別評価を実施している1年は86.1%[81.5%]、2年は81.4% [79.1%] と前年度を上回った。思考力・判断力・表現力の育成を重視した教育実践が徐々に定着してきた。しかし、授業で進路達成に必要な学力が身につけているという実感が乏しい。働き方改革の推進も考え、外部講師による進学講習の環境整備も考えたい。</p> <p>(2) ア 生徒⑫93.1% (○) 目標値には届いていないが、大学教授を招いて観点別評価に係る学びの深化についての職員研修を実施し、組織的に取り組む体制を整えることができた。</p> <p>(3) ア 生徒⑧36.0% (△) 前年度より上昇したが、目標値には届かなかった。多数の教員は学習支援クラウドサービスで課題や学習内容等の配信を頻繁に行い、生徒も熱心に取り組んでいるが、数値に反映していない。家庭での学習状況等、リサーチが必要である。</p> <p>(4) ア R6年1月19日に1、2年全員受検。合格に向けた講習も実施したが2級取得率は8.8%に留まった。 (△)</p>
--	---	---	--	--

府立今宮高等学校

<p>3. 社会の多様性を認識し、「一人・社会・世界」と繋がる力を育成する。</p>	<p>(1) 国際感覚と国際交流力の育成 ア 海外姉妹校との交流</p> <p>(2) インクルーシブ教育の推進 ア 共生推進教室開設に向けた知的障がい生徒との交流の促進</p> <p>(3) 防災活動の促進 ア 地域の小中学校、地元住民と連携した防災訓練</p> <p>(4) 社会に開かれた学校づくり ア 広報活動の充実 イ 地域との連携促進</p> <p>ウ PTA、同窓会、後援会との連携の強化</p>	<p>(1) ア コロナ禍を考慮し、国内でのプログラムを提供する。</p> <p>(2) ア 共生推進教室在籍生徒への理解促進と共に学ぶ教育の理解促進を行い、なにも高等支援学校との自治会・クラブ・行事など交流の促進。</p> <p>(3) ア 小中学校、地元区民の防災計画を掌握する中で、連携のあり方を作成し、高校として防災に関してリーダーシップを発揮できるようにする。</p> <p>(4) ア ・中学生参加行事の充実 ・HP の充実 ・パンフレットの見直し イ ・浪速区を中心とする地域・企業との連携促進 ・教養講座の継続開催</p> <p>ウ 年間行事について円滑な運営、連携に努める。プログラム案内をクラウドサービスを通じて行き、周知を徹底する。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」生徒③〔62%〕の肯定感を 65%以上とする。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」生徒③の肯定感〔86%〕を 90%以上とする。</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」生徒④〔72%〕の肯定感を 75%以上とする。</p> <p>(4) ア R5 年度入試において第 3 回予備調査までに 1.10 倍以上。〔1.15 倍〕 イ 学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」生徒④〔73%〕の肯定感を 75%以上とする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断「学校では PTA 活動は活発であったか」保護者⑩〔68%〕の肯定感を 75%以上とする。</p>	<p>(1) ア 生徒③90.0% (◎) コロナ禍が明けて、4 年振りに台湾の姉妹校が来校し、生徒による歓迎会を行うなど大いに親交を深めることができた。また、イタリアの高校生とビデオレターの交換を行うなど授業での取組みも見られた。次年度はアメリカの姉妹校が来校予定である。</p> <p>(2) ア 生徒③85.4% (△) 共生推進教室在籍生徒の活動拠点となる教室確保が十分でないことや 3 年在籍生徒がいないことがあり、目標値を高く設定しすぎた感がある。しかし、共生推進教室在籍生徒によるクッキー店の販売やステンドグラス教室の開催など精力的に活動を行い、学年別に見ると、1 年 85.1%〔83.6%〕、2 年 89.6%〔87.6%〕と前年度を上回った。生徒が主役の仲間作りを進め、今後に繋げたい。</p> <p>(3) ア 生徒④78.7% (◎) 地震・津波・火災の発災時の実情を想定した防災避難訓練と講話を 2 回実施し、正しい知識と持つこと、発災時の適切な初動を学習すること、日常の備えを十分に行うこと等、防災の意識向上を継続する。また、次年度は地域と連携した訓練ができるよう計画を進める。</p> <p>(4) ア 第 1 回予備調査 1.625 倍〔1.554〕(◎) 共生推進教室の希望調査も 2.00 倍と前年度を上回っている。引き続き本校の魅力発信に努める。 イ 生徒④72.0% (△) 教職員への同じ問いの肯定的回答③は 88.2%〔81.8%〕と大きく上昇しているので、教養講座の充実を図り、コロナ禍で途切れていた活動を復活させるなど、意欲的に取り組んできたが、生徒には見えにくかった。生徒が社会資源として地域活動に参画する機会を増やしていきたい。 ウ 保護者⑩93.2%〔81.4%〕(◎) 今年度集計方法を修正した(「わからない」を回答数から引いた。前年度と同じ集計でも 72.7%と上昇している)。文化祭や清掃活動及び花壇の整備、学校説明会への参画等、充実した PTA 活動が実施できた。また、同窓会との連携も充実し、後援会の復活もめざしている。</p>
<p>4. 高い志を持って、進路実現をするためのキャリア教育の充実</p>	<p>(1) 系統的なキャリア教育の充実 ア 高・大・社のトランジションを意識したキャリア教育の充実</p> <p>(2) 進路実現を可能にする学力の育成 ア 講習の充実 イ 自学自習システムの導入</p> <p>(3) 進学実績の向上 ア 進学実績の向上</p>	<p>(1) ア 3 年間の進路指導、進路行事を見直し、「キャリアアンカー」を育てる科目選択指導と連動したキャリア教育の推進</p> <p>(2) ア 進学講習の開催 イ 教育産業の VOD 学習により自学自習を促進</p> <p>(3) ア 教育産業の模擬試験・学力学習実態調査・分析会などの活用を促進し、教職員の進学指導の力量の向上を図る。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断「希望進路や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」生徒②〔88%〕の肯定感 90%以上を維持する。</p> <p>(2) ア・イ 大学入学共通テストにおいて平均点以上を獲得する科目数を 300 科目以上にする。〔290 科目〕</p> <p>(3) ア 国公立 25 名以上継続〔19 名〕 関関同立+近の合格数 140 名以上継続〔130 名〕</p>	<p>(1) ア 生徒②87.1% (△) 目標値には届かず前年度より若干下がった。科目選択指導は総合学科の肝である。3 年前に設定した系列等に起因する選択の自由度の縮小について、生徒の様子や進路状況等をみて再度検証する必要がある。</p> <p>(2) ア・イ 平均点以上科目数 276 (△) 進学講習は 3 学年とも実施したが、科目数やボリュームにおいて生徒のニーズには十分に答えられていない。教育産業の自習教材は、一部の生徒が大いに活用するに留まっている。働き方改革が進む中、生徒に対して、提供する側の熱量が伝わるような新たな施策を考えたい。</p> <p>(3) ア 国公立大学 25 名 (○)、関関同立+近の合格者数 122 名 (△)。教育産業の模擬試験や学習実態調査の分析会をその都度行い、生徒に適切なアドバイスを行って高い志を持たせて激励しているところである。</p>

府立今宮高等学校

5. 教職員集団「チーム今宮」の育成	(1) 切磋琢磨する教職員集団の育成 ア 学校経営計画を意識した教育活動の推進	(1) ア 高大接続改革・新学習指導要領・観点別評価の実施・ICT の活用・共生推進教室の設置など、新たな教育課題に対して、学校経営計画を意識し、切磋琢磨する教職員集団の育成	(1) ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」教職員④ [59%] の肯定感を 60%以上にする。 学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」教職員⑤ [76%] の肯定感を 80%以上にする。	(1) ア 教職員②84.3% (◎) 飛躍的に向上した。「伝統校・総合学科・共生推進教室設置校」の3つの特長を柱とする教育方針を内外に明確に打ち出し、教職員がベクトルを合わせて互いに協力して取り組む集団づくりに努めた。 教職員⑤90.2% (◎) 大幅に上昇。実例に基づく人権研修や大学教授を招いた授業改善に係る研修等でグループワークやフィールドワークを行い、直ちに教育実践に役立つ研修を行うことができた。
	(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上 ア 授業力の向上	(2) ア 授業アンケート及び自由記述結果を活用した教科での検討会の実施。	(2) ア 学校教育自己診断「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」教職員⑧ [98%] の肯定感を 95%以上を継続する。	(2) ア 教職員⑧96.1% (○) 次年度から全学年新学習指導要領による教育課程を実施するにあたり、コロナ禍を経験した生徒の状況や大学入試の動向を踏まえて、各教職員が教材の精選や工夫に努めている。
	イ 生徒から信頼される授業	イ すべての授業での満足度が高い内容を提供する。	イ 授業アンケートの9項目平均を 3.40 以上とする。[3.33]	イ 第2回9項目平均 3.32 (△) 目標値に届いていない。実施の時期や方法による影響も受けるが、9項目のそれぞれでの分析と対策が必要である。
	ウ 観点別評価の実施	ウ 新学習指導要領における観点別評価の導入に向けて、各教科で評価の在り方を検討し、試行・実施する。	ウ 学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」教職員⑨ [87%] の肯定感を 90%以上とする。	ウ 教職員⑨78.4% (△) 前年度より大きく下がっているが、これは9月に実施した研修によって、「思考力・判断力・表現力」と「知識・技能」の区別を改めて正確に認識したことによる振り返りの現れだと考える。研修後に観点別評価PTを結成し、指導と評価の一体化を実現する生産性の高い教育実践を行うよう皆で検討を重ねているところである。
	エ キャリア教育の向上	エ 高・大・社のトランジションを意識し、「イベント主義」に陥らない系統的で計画的なキャリア教育を推進する教職員集団の育成	エ 学校教育自己診断「大学について理解することができた。」生徒⑩ [88%] の肯定感を 90%以上を維持する。	エ 生徒⑩88.4% (○) 90%には達しなかったが、前年度を超える値が得られている。1年全員による関西大学訪問や希望者による大阪公立大学訪問、2年次「未来探究」における大阪大学との連携、大阪出身でエチオピア在住の国連職員によるキャリア形成の講話を聴く等、新たな取組みを行った。WWL の活動や新たな高大連携の具現化を進める。
	(3) 情報共有を促進させ、ICT を有効活用できる教員の育成 ア クラウドサービス、トップページを活用した情報共有	(3) ア 校内での共有ツールとして学校トップページの活用を構築し、情報伝達や緊急用にクラウドサービスを活用	(3) ア 学校教育自己診断「本校は計画的に人材育成を行っている」教職員④ [50%] を 55%以上にする。	(3) ア 教職員④72.5% (◎) 大幅に上昇。デジタル採点や電子黒板の一斉導入等、大阪府が計画的にICT活用の増進し、本校が遅延することなく有効に活用できていることと、教職員一人ひとりとのコミュニケーションを取りながら10月下旬に次年度の運営委員及び学級担任を決定するなど、校内人事を迅速に進めていることが起因していると考えられる。
	イ GIGA スクール構想に基づく ICT の活用の促進	イ 新たなプラットフォームの導入と活用実践について研修を行う	イ 学校教育自己診断「学校は ICT 環境整備を行っている」生徒④ [88%] の肯定感を 90%以上	イ 生徒④90.4% (○) 複数の学習支援クラウドサービスの有効利用が進んでいる。1月には普通教室に電子黒板が導入されるため、活用実践に係る研修を予定している。さらなる成果が期待できる。
	(4) 「働き方改革」の促進 ア 仕事の平準化・合理化の促進	(4) ア やりがいをもって業務を行い、負担を軽減する。教育庁の推奨する ICT 化による業務効率化を年度当初より実施する。	(4) ア ストレスチェック総合指数を 100 以下にする [102]	(4) ア 総合指数 76 [受検率 91%] (◎) 26ポイントと驚くほど減少した。特に上司及び同僚のサポートが大幅に改善した。しかし、仕事の量的負担を感じている教職員は依然多く、仕事の平準化や思い切った業務の合理化を図る必要がある。今年度プリントのソートから紙折まで自動で行う機材を購入しただけでも随分と作業効率が上がった。このような機材の設置や未だに空調設備のない食堂や教室、教科準備室へのエアコンの設置など、職場環境の改善を進めたい。